

第3学年 社会科 学習指導案

1. 小単元名『農家の仕事』

(教科書：『小学社会3・4上』p.86～95／学習指導要領：内容(2)ア，イ)

2. 小単元の目標

○自分たちの市で行われている生産活動について、働く人たちの様子や生産のための工夫をとらえるとともに、原料や製品を通した他地域とのつながりに気づくことができるようにする。

3. 小単元の評価規準

社会的事象への 関心・意欲・態度	社会的な 思考・判断・表現	観察・資料活用の 技能	社会的事象についての 知識・理解
市で行われている生産活動に関心をもち、意欲的に調べることを通して、市の生産活動と自分たちの生活とのかかわりを考えようとしている。	市で行われている生産活動の様子から学習問題を見いだして追究し、市での生産活動の特色やそれらの仕事に携わっている人々の工夫について思考・判断したことを言語などで適切に表現している。	市で行われている生産活動の様子を的確に見学・調査したり、具体的資料を活用したりして必要な情報を集め、読み取ったりまとめたりしている。	市で行われている生産活動には、原料や製品を通した他地域や外国とのつながり、働く人の工夫や努力があることを理解している。

4. 指導にあたって

(1) 児童の実態

本校は玉ねぎ畑に囲まれ、玉ねぎ農家の児童が多くいる。見慣れた景色ではあるが、農家の児童以外は玉ねぎについて意識したり、学ぶ機会がほとんどない。この小単元において、自分たちの生活の身近で行われている玉ねぎ作りの過程を学ぶことを通して、自分たちの住む地域をより深く見つけ、考えていこうとする意欲を育てるが大切であると考える。

(2) 教材について

校区には玉ねぎ選果場があり、収穫時期には見学が可能である。授業においては、外部講師として農業協同組合の方や農家の方を招いて話を聞いたり、玉ねぎの生育過程の写真や動画を資料として取り入れながら進めていく。

(3) 指導上の工夫・留意点

本小単元は、農作物を作る思いやその過程をより実感的に学ばせるためにも、1年を通して学校周囲の景色の変化に気づかせるように声掛けをしていく。さらに学習を意欲的、主体的に進めていくために、体験したり、調べたりする活動の場面を多く設定する。併せて友だちの意見を聞き、自

分の考えと比較・検証できる場として、グループ学習をできる限り取り入れていく。

5. 小単元の指導計画（総時数 10 時間）

時	ねらい	○学習活動 ・内容	◎使う資料 ◇留意点 ◆評価
① ② (つかむ)	市では、どのような農作物が作られているか関心をもち、意欲的に調べることができるようにする。	○自分たちの市で作られている農作物を予想する。 ○市内収穫量ベスト5の農作物を提示し、その順番をグループごとに考える。 ・米、玉ねぎ、大豆、小麦、はくさい ○ベスト5の農作物についてグループごとに調べる。 ・いつ頃から食べられるようになったのか ・その農作物の特徴 ・代表的な料理方法 ○グループごとに発表する。 ○調べてみて疑問に思ったこと、もっと知りたいことをまとめる。	◎農作物の写真 ◎農作物収穫量のグラフ ◎農作物に関する資料 ◇市内で生産される農作物に関する資料は、農業協同組合に提供を依頼する。 ◆市の農産物の生産について興味・関心をもつことができる。(関・意・態／発言) ◆選んだ農作物について調べ、自分の言葉でまとめることができる。(技／発表内容)
③ (調べる)	ゲストティーチャーの話を通して、市で作られている農作物への理解を深められるようにする。	○農協の方に市内で生産される農作物について話をしてもらう。 ・野菜の種を見るのは初めてだったので、勉強になりました。 ・わたしたちが食べている玉ねぎは葉の部分だと聞いてびっくりしました。 ○ゲストティーチャーに質問をする。	◎野菜の種 ◇次時から重点的に扱う玉ねぎについては、特に詳しく話してもらう。 ◆市の農産物生産について興味・関心をもつことができる。(関・意・態／発言)
④ (調べる)	農事ごよみから玉ねぎ作りの作業過程を読み取り、見学の計画を立てることができるようにする。	玉ねぎを作るための工夫や努力について調べよう。 ○玉ねぎに関して知っていることを発表する。 ・玉ねぎを切ると涙が出る。 ・熱を加えると甘くなる。 ○農事ごよみから玉ねぎ作りの作業過程を調べる。 ・作業の順番 ・作業によって、農機具が異なること ○玉ねぎ作りの動画を視聴し、見学で見て確かめたいこと、聞いて確かめたいことを整理する。	◎土づくりから収穫までの写真 ◎玉ねぎができるまでの動画 ◎玉ねぎに関する資料 ◇学校のまわりに広がる玉ねぎ畑の、四季の変化を思い出させる。 ◆農事ごよみから玉ねぎの作業過程を読み取ることができる。 (技／ワークシート)

⑤ ⑥ (調べる)	収穫作業の見学を通して、玉ねぎ作りの様子について理解できるようにする。	○玉ねぎ収穫の様子を実際に見に行き、農家の方に質問をする。 ・一つのコンテナにどれくらいの玉ねぎが入るか。 ・収穫した玉ねぎを入れたコンテナを雨の日でも外に出しておくのはなぜか。 ○教室に戻り、見学してわかったことや、もっと調べてみたいことをまとめる。 ・選別作業を見てみたい。 ・玉ねぎはこの後どこへ送られるのだろう。	◆見学前に立てた見学の視点に沿って観察したり、話を聞き取ったりしている。 (技／発言)
⑦ 【本時】 ⑧ (調べる)	玉ねぎの出荷方法や出荷先を調べて、農家の工夫や、他地域とのつながりに気づくことができるようにする。	○選別され、規格外となった玉ねぎはどうなるのか調べる。 ・「訳あり玉ねぎ」として直売所などで販売したり、加工用として企業へ出荷していることに気づく。 ○収穫された玉ねぎはどこに出荷されるのかを調べる。 ・農家で収穫された玉ねぎが全国各地に出荷されていることに気づく。	◎出荷フローチャート ◆規格外の玉ねぎが工夫して販売されていることに気づく。 (思・判・表／ワークシート) ◆収穫された玉ねぎが、様々な場所に出荷されていることを理解する。 (知・理／ワークシート)
⑨ (調べる)	農家の人がいろいろな努力や工夫をしていることに気づくことができるようする。	○農家の人は、どのような気持ちで農作物を作っているのかを考える。 ○これまでの学習を踏まえて、農家の方に聞いてみたいことをまとめる。 ○ゲストティーチャー(農家の方)を招き、生産の様子、うれしいこと、苦労などを話してもらう。 ・農家の後継者問題、機械の値段の高さ、輸入農産物、農業所得の確保(天候に左右されやすい)、安心・安全な農作物の生産、など。	◇ゲストティーチャーとは事前に打ち合わせをし、話してもらいたい内容を伝える。 ◆農家の人が玉ねぎを収穫するために行っている工夫や努力を、農家の人の願いと関連づけて考え、適切に表現している。 (思・判・表／感想文)
⑩ (まとめる)	生産の仕事を調べてわかったことや、仕事の工夫を伝える新聞をつくることができるようにする。	○これまで学習してきたことを振り返りながら、新聞の形でまとめる。	◇農業の仕事は自分たちの生活とかかわりがあり、自分たちの暮らしを支えていることを理解し、わかったことと、自分の考えを区別して新聞の形で表現できる。 (思・判・表／新聞)

6. 本時の指導（第7時）

（1）本時のねらい

規格外玉ねぎの出荷方法を調べることにより、廃棄する農産物を減らすための工夫に気づくことができるようにする。

（2）本時の展開

時配	○学習活動 T：発問 C：児童の反応	◎使う資料 ◇留意点 ◆評価
15分	○玉ねぎ収穫の見学を振り返る。 T：収穫の見学でわかったことを発表しましょう。 C：コンテナに約 1300 kg（約 6000 個）の玉ねぎが入ることがわかりました。 C：コンテナに入れられた玉ねぎは外に積み上げて乾燥させます。多少の雨が降っても風が入ってくると乾くそうです。 C：収穫した後は、選別をして大きさをそろえます。 ○簡単な選別体験を行う。 T：ここにある玉ねぎを大きさごとに分けてみましょう。 C：ゲージを使えば簡単に分けることができるよ。 C：あれ、ゲージを通らない大きなものがあるよ。 C：とっても小さい玉ねぎもあるよ。これはいちばん小さいサイズの所を通してよいのかな。 C：これは玉ねぎが二つくっついているよ。この場合はどうなるのかな。 C：少し皮がむけているところがあるけど、よいのかな。	◎見学した時の写真 ◇見学でわかったことを確認し、本時の授業につなげる。 ◎規格品と規格外の玉ねぎ ・むけ玉（皮の一部がむけている） ・抱き玉（二つの玉がついている） ・5 cm以下の玉ねぎ（規格外） ◎選別の道具（ゲージ） ◇見学時は玉ねぎに触っていないので、子どもたちにとって授業で初めて触る玉ねぎである。できる限り全員が選別を体験できるようにする。
20分	○規格外の玉ねぎがどうなるのかを調べる。 規格外の玉ねぎはどうなるのだろう。 T：決められた大きさ以外にも、形が悪い、少し傷がついているなどの玉ねぎを「規格外」といいます。規格外の玉ねぎはどうなるのでしょうか。グループで話し合ってみよう。 C：もったいないけれど、捨てると思います。 C：値段を安くして売ると思います。 C：形がわからないように、何かに作りかえると思います。 C：自分の家で食べると思います。	◇選別は大きさだけではなく、形、傷なども見て分けていることに気づかせる。 ◇形、大きさが悪くても味は変わらないことに気づかせる。

	○直売所の「訳あり玉ねぎ サイズが小さいだけ」「正規品よりお得」と書かれた商品の写真から考える。 T: この写真からわかることは何でしょう。 C: 「訳あり」ということは、何か問題があるということなのか。 C: 「サイズが小さいだけ」ということは、味は同じということ。 C: 正規品より安く売っている。 ○玉ねぎからできている加工品から、規格外玉ねぎがどう利用されているのかを考える。 T: これらは規格外玉ねぎを使って作ったものです。規格外の玉ねぎはどのように使われていますか。 C: 全部玉ねぎが使われている。形を変えるんだね。 C: 食べたことがあるよ。	◎直売所の写真 ◇学校の近くにある直売所を思い出させる。 ◎玉ねぎ加工品（スープ、ドレッシング、マスタード、パウダー、ラスクなど）
10分	○玉ねぎ選果場で働く A さんのインタビューを見せる。 T: 規格外品はどうなるのかを取材してきましたので、次の動画を見てください。 (動画の視聴) C: 規格外の玉ねぎは、農家の人が直売所で売ったり、企業に売って加工品になったりするんだね。 C: 昔は規格外のものは捨てていたんだ。もったいないな。 ○今日の課題のまとめを各自が考え、発表する。 T: 今日の課題は「規格外の玉ねぎはどうなるのか」でした。授業のまとめを自分の言葉で書いてみましょう。 規格外の玉ねぎはできるだけ利用され、みんなに食べてもらえるように工夫して売られている。 T: 規格外の玉ねぎも無駄なく、少しでも多くの人に食べてもらえるように、農家の人は工夫しているんですね。次の時間は、規格に合格した玉ねぎがどのように運ばれてお店に並ぶのかを考えていきましょう。	◎インタビュー動画 ◇加工用玉ねぎの全てが規格外品ではなく、規格品も使われていることを補足する。 ◇自分の言葉で表現できない児童への支援を行う。 ◆規格外の玉ねぎが工夫して販売されていることに気づく。 (思・判・表／ワークシート)